

# ごみ分別大辞典

## 分別で間違いやすいごみ

分別ができておらず、収集されず残っているごみの中で、よく見かけるものを紹介します。きちんと分別し、お互いが気持ちよく過ごせる環境を作りましょう。

### ●燃やすごみになるもの



### ●特定品目

特定品目は、町指定ごみ袋がありません。レジ袋やポリ袋など中身が見える袋で捨てましょう。種類ごとに袋を分けて出してください。



※ボタン電池は、絶縁のため両面にセロハンテープを貼って捨てましょう。

## ごみ出しルールを守ろう

ごみ出しのルールが守れていないと、どんな問題が起きるでしょうか。不法投棄の原因につながったり、ごみが収集されず残ったままになったりします。気持ちよく生活できるようお互いにルールやマナーはしっかり守りましょう。

### 🗑️ 収集日の朝8時30分までに出示ください

収集は、午前8時30分から行います。地区や曜日で、収集の順番が異なるため、必ず午前8時30分までに出示しましょう。

### 🗑️ 袋の中に入れて出してください

ダンボールや枝などをひもで縛り、ごみ袋をひもにくくり付けて出している場合は収集できません。完全に袋の中に入れて出しましょう。



### 🗑️ 1回で出せるごみ袋は5袋までです

ごみステーションに入るごみ袋の数は限りがあります。普段より多く出す場合は、地域の人の迷惑にならないよう、数回に分けて捨てましょう。



## 輝く人権

連載人権シリーズ



人権教育推進員  
あかほし ゆうこさん  
赤星 裕子さん

●問い合わせ  
役場人権推進課 人権推進係  
☎096(293)0863

今年5月より役場人権推進課で人権教育推進員をしています。3月まで菊池郡市の中学校で国語科教師、教育支援員として生徒たちと学び合ってきました。

42年間の学校生活は、自分を見つめ直す機会が何度もあり、差別をなくす側に立つ意志と視座を与えてくれました。今回は、「学校から視えてきた部落差別」として自身の経験をお話します。

私は教職に就いて初めて「同和」教育（人権学習）と出会うものの、自分事となっていまませんでした。しかし、校内での部落差別発言を受けて、差別された側の怒りや悲しみ、子どもたちの真剣な訴えを目のあたりにして自分は被差別側に立ちたいと初めて思いました。

自分の中学時代を振り返ってみると、加差別の経験が何度もありました。そのひとつ、中学校に入学して最初に友だちになった級友に対してあだ名をつけて陰口を言っていました。地方出身であるという理由で、

多数者が少数者を見下していたのです。先生が本人の作文を読まれた時、私は耳が真っ赤になり、謝りました。このできごとを「人の嫌がることを言うてはいけない。注意されたら素直に反省しよう」という意図で、担任した学級で語りました。すると一人の生徒から「それは本当に謝ったことになっていないと思います」と指摘されました。

改めて考えると、私は優しくて努力家のその生徒がねたましかったのです。人数とか出身とか、本人が嫌がるからではなく、差別の理由は自分の中にありました。変わらなければならぬのは差別する側の心です。部落差別は遠い話ではなく自分の中にあります。

自分を見つめ、相手の表面ではなく深層の思いに寄り添い、日常の暮らしの中で差別を見抜き、ともに差別をなくす仲間づくりを進めていきたいと思っています。

これから大津町の「人権を尊重し一人一人の個性と能力を発揮できるまちづくり」に向けて微力ながら尽力して参りますので、よろしくお願します。



学習会風景

おおづのしごと

大津町企業連絡協議会

vol.48

**栄光デザイン&クリエーション株式会社 熊本工場**

人と人の調和を大事にし物造りを通してお客様に喜ばれる企業を目指す

弊社は、本社を神奈川県におき今期50期を迎えます。熊本工場は、本田技研工業様の大津町進出に伴い工場を設立致しました。

本社は、試作、3Dモデル、切削加工などを行っています。熊本工場は、主に射出成形機によるバイク・自動車部品等のプラスチック成形、加工の仕事を行っており九州圏内に顧客を持ち品質第一に日々製品の提供をしています。

直近では、人材不足の解消として6年前よりミャンマー国から技能実習生を雇用し「安全・安心」をモットーに全社員がお互いに健全で明るくコミュニケーションを大事にし働きやすい職場作りに取り組んでいる会社です。

執行役員  
いわさき のぶひろ  
岩崎 信博さん

熊本工場正面玄関

工場内風景

**【企業概要】**

- 所在地 大津町室1631
- 業 種 製造業
- 従業員数 43人（全体84人）
- 事業内容 自動車・バイクのプラスチック成形
- 連絡先 ☎096(293)4301

ホームページはこちら▶

栄光デザイン&クリエーション株式会社 熊本工場 🔍検索

Japan

くらべてみよう! クロッシングカルチャーズ vol.12

America

**CROSSING CULTURES**

CIR(国際交流員) オースティン・ハインライン

オースティンが日本の文化とアメリカの文化を比較して紹介する「CROSSING CULTURES」コーナーの第12回は「アメリカのハロウィン」をご紹介します。

**10月的一大イベント、ハロウィン!**

ハロウィンはほとんどの国でよく知られていますよね。仮装したり、近所の人からお菓子をもらったり、子どもにとっては楽しい日です。10月になると私は素晴らしいことを思い出します。それはカボチャを使ったさまざまな食べ物を作られることです。10月はハロウィンのために大袋のお菓子が多く売られますが、季節の名物料理もたくさん並びます。10月から11月にかけて最も人気な食べ物であるカボチャを使って、パイやスープ、クッキー、お菓子などがよく作られます。

アメリカでは、中高生が遠足でカボチャ農園に行くことがあります。私が子どものころに行った時には、カボチャがあちこちに散らばっている畑に行きました。好きなカボチャを選んで家に持ち

帰り、ハロウィンの日に家族でカボチャに目や口を彫ります。カボチャを選んだ後はトウモロコシ畑の迷路に行きました。子どもたちがよく訪問する農園ではこのようなアクティビティを用意していました。家族でカボチャを彫ったり、カボチャを使った料理を作ったりするのはアメリカではよくあることです。私の家族も、カボチャの種をローストして塩漬けにし、カボチャの中身を使ってカボチャスープをよく作りました。皆さんも10月はカボチャを使った料理をぜひたくさん食べてみてください。